四万十流域 森川海の物語

海を見て落ち着く人、山を見て落ち着く人。
遠い祖先の時代から、自分の中の遺伝子が
どちらかを選んでいる。
日本は世界有数の森林国。その中でも高知・四万十は
日本一の森林県である。
森におおわれた国土をもち変化に富んだ森林から
受ける恩恵は、水の保水・浄化、二酸化炭素の吸収
木材供給 野生生物のすみか、山の幸など計り知れない。
そして川がつなぐ森と海との密接なつながりがある。

腐葉土

おちばや落枝、動物の遺体などが
土壌生物やキノコなどによって分解され
土に還る。
わずか1cmの腐葉土ができるのに
100年の時間がかかる。
おちばの間からにじみ出る養分や
無数の孔状ゼスポンジの役目となり
水の浄化や保水の役目もはたす。

黒尊

花崗岩に含まれる砂鉄小生分
である黒雲母を意味するとも
いわれる。
四万十川の植物プランクトンをはぐくむ
鉄分の供給源ともいえる。

水のこどもみくまりちゃん

やっとめぐりまた水は
天からの授かりもの。「天水」(あまみず)

樹原

木偏に"乍"とかいて
コスノキ、ハハソ。
腐葉土のもととなる
広葉樹。
四万十川の最上流部に
ある雲の上のまちの名前が
広葉樹である「樹原」
ということがとっても
意味があるのかもしれない。

不入山

鶴松森

四国カルスト天狗高原

天狗の森

地芳峠

シカ問題

シカの黒くうるんだ瞳に
うらみはないが
我が物顔で木や
農作物を食い散らす
ふるまいは目にあまる。
いたるところで食害が
深刻さをましている。

東津野

高研山

かってえんこうがすんでいた土佐の川。

大野見

松葉川

春分峠

杉原

霧立山

地蔵山

宇宙船からも「四万十」と識別される大蛇行。

腐葉土

おちばや落枝、動物の遺体などが
土壌生物やキノコなどによって分解され
土に還る。
わずか1cmの腐葉土ができるのに
100年の時間がかかる。
おちばの間からにじみ出る養分や
無数の孔状ゼスポンジの役目となり
水の浄化や保水の役目もはたす。

海の生き物が育つには、森や川のめぐみがとっても大事。

大昔から海の人はそのことを知っていた。
四万十川流域でも山の奥に海の神
「海津見神社」を示す人参神におとずれていた。
海の人が山へ参拝に往還することで
海の文化が里を通じて山に伝わる。また
山の文化も川の流れにそって流域の里や
海辺に広がっていった。

カツオをめぐる食物連鎖

カツオのエサはイワシ。イワシは
動物プランクトン＞植物プランクトンと
つながる。水の中での
食物連鎖を形づくっている。
1トンの植物プランクトンがあって
はじめて1kgのカツオが育つ。

十和

大正

窪川

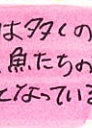
志和

五在所山

三原

森や川や海を一体ととらえた環境保全が大事!!

蛇行



蛇行は多くの瀬と淵をつくり、魚たちの絶好の住みかとなっている。

滑床

三本杭

目黒

江川崎

堂ヶ森

森の中のいのちの輪

森林生態系の中で"森のはいのち"はとぎれることなくめぐる。

黒尊

大黒山

篠山

四万十川、森と川と海の恵みをはぐくむキーワード

最上流部の「樹」広葉樹、腐葉土
目黒「黒尊」の黒い砂鉄成分、鉄
この二つが水の中の生き物の土台となる
植物プランクトンをはぐくむ。

木の神 スサノオノミコト

- マコモ 楠
- ヒゲ杉
- 肥え松
- 瓦モ 槙

日本書記にはスサノオノミコトは体毛を抜いて人間の役に立つ木をつくったと伝わる。

人工林について

見わたす限りの山並の
大半がスギ・ヒノキの人工林。
戦争で荒廃した国土の復興の
ために大量に伐採された広大な
山林をコツコツと、重力に逆い
ながら山仕事に汗を流して
国土を緑でうめつくしてきた
先人の努力は、万里の長城や
ピラミッド建設にも匹適する
日本人の行ってきた大偉業。

一年の中にも四季があり、ひとめぐりしてきたところで樹木に年輪ができるように、いのちの輪がつながっている

土壌生物

森の土にすむ生き物は
森のいのちの輪廻と
つかさどっている。

大方

中村

下田

宿毛

三原

常緑広葉樹の落ち葉

シイやカシ、ツバキ、クスノキなどの常緑広葉樹は
春になると新しい季節にそなえて葉っぱの
世代交代がくりひろげられる。
新しい葉っぱに押し出されるのか
新しい葉っぱに使命をつなぎ自ら枝を離れるのか。
後者だとするとなんだか救われる気がする。
はらはらと舞う新緑の季節の落ち葉は
送り葉ともいう。
儚くもあり、力強くもある。

太陽の光を反射してキラキラ光る常緑広葉樹は照葉樹とも呼ばれる。

森の中のざざ波みたいだ。

水の惑星地球

しかしその水の内、飲めるのは水が1%たらず。
世界中では、水が飲めない人々や不衛生な水を飲んで命を失っている子どもたちが大勢いる。
水に恵まれた日本でも毎年どこかで水不足がおこる。
水は地球規模でみると稀少資源だ。

水の循環

雨の日には森の尾根に水のこども「みくまり」がうまれる。
天の恩恵をうけた一ひと雫は森にふりそそぎ
厚くつもったスポンジのような腐葉土にしみこんでいく。
土の中を長い時間とかけて通り抜けミネラルや
養分をいっぱい含んだ水となり、泉や谷川から
流れ出し、数々の里を潤しながら、川を流れていく。
ゆたかな農作物の実りや川の生き物を育み
ゆっくりと海へと向う。
やがて海へたどりつき、さらに黒潮のような
海流となりながら、海のいのちを育てる。
大海原を限りなく巡り、いつの日か
水蒸気となって天へ昇り雲となり、ふたたび
地上へ降り、水の旅はつづけられる。
ひとめぐりするその時間は数万年かかるとも
いわれる水の旅は地球の中を絶えることなく
巡っている。

今ノ山

弦場山

大月

下ノ加江

大岐

佐賀

井ノ岬

入野

土佐清水

砥山峯

佐田山

足摺山

柏島

花粉症や環境破壊の一因として悪者あつかいされる人工林だが、人が手を加え整備していくことで天然林と同等の公益的機能を発揮していく。

人が植えた木は人の子どもといっしょで、人が手をかけなければ成長することができない。

足摺岬自然休養林。

亜熱帯性の樹木が
生育していて、南国情緒
まんてん。
アコウやビロウ、タブ、群。

西南豪雨で山の土砂が大量に流出したことで、海の魚が激減している。

ウバメガシやツバキなどの照葉樹林のトンネルが海ぞいに続いている。

いく重にも連なる豊かな山並みに源を発したいく筋もの河川の流れを集めて青く輝く土佐湾に魚の群れが泳ぎまわる。

地球最大のほ乳類である鯨をそだてているものは森からの贈り物の数々。

2013.9.3